

第 61 回研究発表会及び現地見学会について

本大会の現地見学会について、A、B、C コースの概要をお知らせいたします。九州北部の豪雨災害について、現地での活発な議論と交流の機会となることを期待し、ご参加をお待ちしております。

A コース：2012 年八女災害〈葛平地すべりと十籠地すべり〉

葛平（かすびら）地すべり（担当：日本地研（株） 田口）

テーマ：2012 年八女地域豪雨災害での片岩地山の地すべり

概 要：葛平（かすびら）地すべりは、平成 24 年 7 月九州北部豪雨で星野川左岸の水衝部が浸食され、片岩の山腹斜面が幅(W)約 120m、斜面長(L)約 200m にわたり崩壊したものである。対策はアンカー抑止工と護岸



工で河道閉塞のリスクを低減し、越流での集落防護と山林保全を行った。

十籠（じゅうごもり）地すべり（担当：日鉄鉱コンサルタント（株） 川本）

テーマ：2012 年八女地域豪雨災害での熱水変質作用を受けた火山岩地山の地すべり

概 要：十籠地すべりは福岡県の中でも最も長期にわたり地すべり対策事業が行われてきた地区であり保全対象物も多い。平成 24 年 7 月九州北部豪雨の際には既往の対策工により星野川の河道閉塞を防止し、旧星野村の中核を保全することができた。



平成 24 年九州北部豪雨直後(2012.7.16 撮影)



十籠地すべり全景(2022.7.1)

B コース：2017 年朝倉災害〈宮野急傾斜地と船底谷川源頭部斜面崩壊・地すべり〉

宮野地区急傾斜（担当：川崎地質（株） 園田）

テーマ：急傾斜地における災害復旧事業例

概要：当該地は平成 29 年の九州北部豪雨により被災した急傾斜斜面である。斜面には崩積土および片岩類が分布し、崩壊は崩積土と強風化片岩内で発生した。対策としてはおもに、吹付砕工と鉄筋挿入工が施工されている。

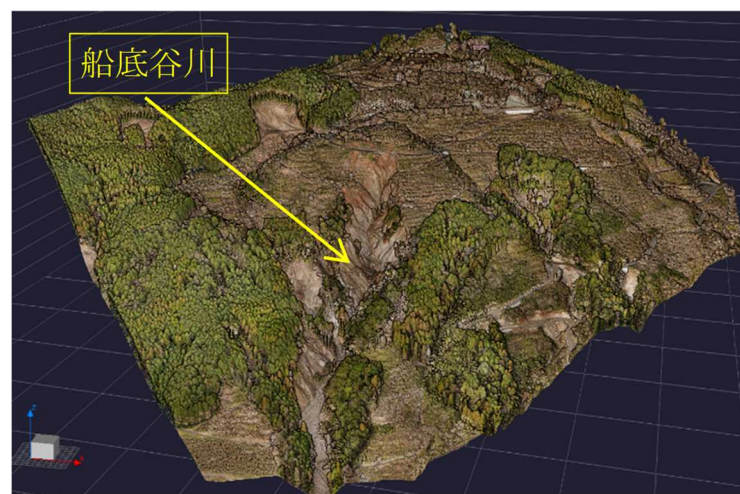


宮野地区急傾斜地（被災直後の状況）

船底谷地すべり（担当：日本工営（株）九州支社 松本）

テーマ：結晶片岩分布域における経年的な地すべり滑動の進行

概要：「平成 29 年 7 月九州北部豪雨」により、筑後川水系の船底谷川源頭部の結晶片岩分布域で地すべりが、中流以下の花崗岩分布域では主に表層崩壊その後、平成 30 年 7 月、令和 2 年 7 月、及び令和 3 年 8 月の豪雨時に地すべり滑動と溪岸崩壊の進行が認められている。



船底谷川源流周辺斜面の 3D 鳥瞰写真

C コース：2017 年朝倉災害〈小石原川ダム周辺斜面と赤谷川流域の地質と災害形態〉

小石原川ダム貯水池周辺斜面（担当：日本工営（株）九州支社 松本）

テーマ：結晶片岩分布域の流れ盤構造斜面における地すべりと対策

概要：小石原川ダムの貯水池周辺は三郡変成岩の結晶片岩を基盤岩とし、流れ盤構造を呈する左岸（北向き）斜面には大規模な地すべり地形が分布する。ダム建設に関連する斜面湛水及び付替道路・原石山の土工の影響評価結果に基づき、必要な地すべり・法面对策工事が実施されている。



小石原川ダムダムサイト左岸法面

赤谷川（乙石川）流域の斜面崩壊（担当：日本工営（株）九州支社 松本）

テーマ：花崗岩分布域において多発した斜面崩壊と土砂流出防止対策

概要：平成 29 年 7 月九州北部豪雨により、筑後川右岸支川の赤谷川流域、特に右支川の乙石川では花崗岩分布域を中心に多数の斜面崩壊が発生し、流出土砂や流木により大きな被害を受けた。このため、福岡県知事からの要望を受けて、国土交通省による直轄砂防事業が進められ、様々な斜面对策、砂防工事、河川工事が進められている。



乙石川流域の崩壊地斜面（対策前）



乙石川遊砂土工 完成予想図（現在施工中）